

共同生活支援ぱあとなあ 令和元年度 事業報告書

《令和1年度の経過と評価》

利用者に安心して過ごしてもらえるホームであることを最優先し、気になることや心配なことなどを丁寧に聞き取り、解決に結び付けてきた。具体的には休みの日の過ごし方で行きたい場所ややりたいことなどを一人ひとり確認しヘルパーの調整や職員の調整を図り実現してきた。それにより、利用者からは何でも希望を伝えても良い、という気持ちを形作る最初の段階に入ることが出来た。今後も丁寧に聞き取りを行うことで能動的に自分の生活を創造して楽しむことが出来るようになっていくよう願っている。支援する職員も利用者の困っている様子を見逃さず声掛けしながら丁寧に聞き取ってあげる場面も多くみられてきた。ぱあとなあの職員は何でも相談できる頼れる世話人であるという姿が少しずつ積み重なってきている。新しく入った職員も努力をして業務を覚えながら利用者支援を行っている。個別の対応は覚えてきてはいるが不慣れなところもあり苦勞している様子は見られる。しかし、人生経験を生かした包容力のある対応をしてもらっている。

利用者が次に自分の身の回りのことを少しずつでも出来るようにと「自分の食器を洗う。」「自分の部屋の掃除をする。」「洗濯物を干す、取り込む、畳む、しまう。」「身なりを整える。」「歯磨きをする。」など職員と一緒にやり方を説明し取り組んできた。特に、歯磨きに関しては職員に口腔ケアの研修に出てもらい磨き方を覚えてもらい支援に活かしている。生活の全般を世話人がすべてしてくれると思っている利用者には丁寧に説明して、自分でできることは自分ですることに合わせ、出来たこと成長したことを承認し、それをほめることで次に行う事への動機付けをすることが出来ている。

取り組みがうまく行かなかったこととしては、オープンハウスを2回行った。1回目に2名の参加者があったが、2回目にはゼロという結果だった。ホームでの生活が分からないというご家族のアンケートの結果を受けて見てもらうという企画だったが、希望者が想定したほど出なかったことはホームの生活を伝える方法に対してほかの方法を考える必要があると思われる。

【GH紬】

男性新入居者

年度途中で男性の利用開始が始まり、2階の宿直室を開放し2階男性6室、1階女性4室、退所された女性利用者の部屋を宿直室としてひまわりハウス4名、GH紬女性4名、GH紬男性6名となり利用者支援を行ってきた。5名から6名になり特に身体に配慮が必要な利用者の支援が増えることでGH2階と1階の支援のバランスが変わってきたが、部分的に2名配置にすることで支援の質を落とすことがないように進めてきた。

利用者の居室の変更（男性利用者、女性利用者）

新しい利用者が独特の歩行から、足の指を擦るように歩くことで足にけがしたことに対応し、トイレに近い居室への変更を行った。トイレに行く回数が多く一日に何十回も往

復する事での足への負担軽減を図った。その後、足のけがは見られていない。

また、職員が退勤して職員不在時に利用者による隣室利用者への干渉が分かり、利用者の居室変更を行った。居室移動後は双方とも落ち着いて過ごされている。男性利用者が女性利用者の部屋に行くことも見られたが、鍵をかけるなどの対応を本人にお願いして、職員が階段入り口の施錠をする等注意を払っている。

このように、日々変化している利用者の行動に対して細やかな対応をしてきたが、支援が行き届かない現状も思い知らされてきた。医療的ケアと夜間支援体制を整え、かつ、十分な職員確保が課題となってくる。

利用者が安心してホームでの生活を送ることが出来るためには、食事、掃除、洗濯などのサービスが提供されていることと健康に生活するための生活面の支援、自分の好きなように過ごせるプライバシーの確保、休みの日に過ごす余暇支援、利用者間のトラブルや悩み相談などがある。利用者の小さな変化に気づき推測を立て、様々な聞き取り方で情報を収集し職員間で共有し話し合い、対応を検討し実施してきた。先に上がった利用者間のトラブルが職員不在時にある問題について夜間職員不在の現状の早期的解決が求められると感じている。

【ひまわりハウス】

女性利用者の退所

利用者の加齢による体力の衰えと一緒に時を過ごしたい親の思いにより、ホーム退所の希望をされた利用者がおられ、面談による聞き取りから夜間の睡眠の状況や夜間のホームの状況に対して職員が不在なことに対する不安も理由の一つとお聞きした。

【活動について】

日帰り旅行では大阪海遊館に出かけている。道路も混雑しており大型観光バスの車中ではビンゴをしたりカラオケをしたり、DVDを見たりして過ごして長い移動時間のレクレーションを考えて提供した。しかし、帰りの乗車時間が長すぎた。疲れもあって利用者の何人かは不調になることがあった。次回は近場で設定することを検討している。クリスマスはホーム合同で職員の知り合いによるマジックショーをしてくださり、いつもと違うクリスマス会が行われた。しかし、利用者はマジックよりも目の前に並べられたご馳走を早く食べたい様子であり、マジックによりご馳走を待たされているため不調になる利用者がおられた。

活動は新しい体験をしてもらいたいということで設定したが、慣れてくれば様子が分かり楽しめるようになることを期待し、今後もさらに新しい出来事を計画していく。

《重点課題に対する取り組み》

1 運営基盤の強化（運営・管理体制、サービス管理）

稼働日増に対する増収と利用者の余暇支援

男性利用者の利用日を増やすため月曜戻りの日を月1回設定し、水曜日に提供していた温泉入浴外出は戻った後の支援で職員の勤務時間内に収まらないこともあり、2名体制をとっていた。しかし、温泉外出を月曜日に変更することで外出自体もゆっくりと過ごし、職員の業務も時間内に収めることが出来るようになった。

また、隔月でプールの設定を行い、バリエーションを持たせ、利用者の楽しみを増やすことが出来た。女性のプール利用についてはヘルパーを利用することで実施していたが、生理などの理由で中止になることも多く、一年を通して一人1回～2回実施するにとどまった。

防災時に向けた地域との連携を見据えた関係づくり

この課題への取り組みは、会議での話し合いの段階から実際の行動を移さなかったため進んでいない。地域の防災リーダーの方と連絡を取り、新年度は関係づくりを進めていく。

2 利用者サービスの拡充

虐待防止

法人全体が目標と定め、虐待防止の取り組みを行っている。ホームでも会議の折に、支援方法や声掛けなど「これは虐待に当たるか」「これは不適切発言ではないか」など具体的な声掛けを例に挙げて話し合い、虐待や不適切支援が行われないように取り組んでいる。他害のある利用者への声掛けに対して具体例を挙げてこの言葉かけはよかったのかなどと話し合い、現場での対応の難しさを分かちあいながら適切な対応と言葉かけについて話し合うなどし現場の支援方法の適正化に努めた。

業務の標準化

業務マニュアルを作成し、職員全体に周知している。一定の水準でサービスが提供され、職員が変わると支援が変わることが無いように確認している。マニュアルの見直しを行い改善するところは改善を行い、さらに使いやすいマニュアルの作成に取り組んでいく。

生活スキルの向上

少しずつ自分の食器は自分で洗うことが出来る利用者も出てきており、出来る方にはお願いしやってもらっている。もちろん、最終確認は職員が行い衛生面での安全を確保している。また、洗濯物を取り込み、畳んでしまうということも取り組んでいる。タンスにきちんと入れられなかったり、他の利用者の衣類が混ざってしまい、利用者の家族から他の方の衣類が混ざっていたとのご指摘があった。今後はもう少しやり方に慎重さを持たせ、混ざることが無いようにしたい。

病気の予防と対応

健康診断の結果、運動をして体重を減らすことが求められているがGHの性格上、集団で行動させるのではなく、個人でそれぞれが行えるようなものでないと実行が難しい。特に問題なのは本人たちが運動することを嫌っており、部屋でゆっくり過ごしたいという思いを持っていることが原因の一つである。居宅介護事業所との契約をしている利用者はヘルパーを確保し週に1回から多い人は2回散歩に出かけている。しかし、内容は運動ではなくヘルパーとお話をする気分転換の現状がみられている。週1回散歩が確保されているからと言って運動をしているとは言えない状況である。

各ご家庭で帰省の日に過剰なカロリーの食事やおやつを食べていることもあるが、すべてを我慢することは生活を窮屈にしまい楽しみもなくなってしまうので解決への課題は難しい。ホームでできることとして食事提供の際にカロリーを抑えての中にあっても見た目にはおいしそうに見え満足感のある献立メニューの提供を心掛けている。

風邪やインフルエンザ予防のための「うがい」「手洗い」を身に着ける。

コロナによる感染拡大防止のために帰宅後玄関で次亜水消毒を行い、フロアに入ると職員が声掛けし手洗いソープによる手指の手洗いとうがいを行っている。手洗いのタオルは個人のタオルを使用するよう徹底している。

3 人材育成・支援力の向上

支援者の支援スキルの向上

利用者個人個人に合わせた支援の声掛けや支援方法などをGH会議や日々の確認をラインによるSNSのやり取りで行い、タイムラグを最小限に抑えた支援方法の統一が行われている。

利用者生活支援に対して、自分の洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、しまう、自分の使った食器を洗う、自分の部屋の掃除をする、身なりを整えるなど、各利用者が自分でできることを増やしており、今年度の取り組みの結果によるものと言える。ただ、時間がたつと自分からすることはなくなるので励ましの声掛けをしながら継続していく支援を心掛けている。

新人職員に対しては初級講座を受けて障害者理解を深めてもらい、利用者の口腔ケアに対する課題から主任職員に研修に行ってもらっている。研修受講者はホームに歯科衛生士をお呼びして事業所内で出前研修をしてもらえることとなり、一名利用者に来てもらい口腔ケアのモデルとして職員全員による口腔ケア研修を行った。職員の障害者理解の知識を深めてもらうために自閉症基礎講座にも参加してもらい事業所の会議で研修内容の説明を行ってもらった。

行動援護従事者養成研修に参加することで、重度支援加算を取ることが出来るようになり次年度の事業収入のアップにつながった。

また、今年度行われた研修に参加し必要な知識やスキルを身に付けて支援力の向上に努めている。

研修名	場所	日付	参加職員
わかりやすい自閉症基礎講座	名古屋市高齢者就業支援センター	7月7日	主任、職員
法人全体研修	奏楽	6月、9月、 12月、3月	GH全職員
支援度の高い利用者の受け入れについて	愛知県西三河総合庁舎	7月2日	管理者
施設職員口腔ケア研修会	愛知県歯科医師会館	9月5日	主任
知的障害・発達障害の理解（初級）に関する研修会	あいトピア	9月5日	新人職員2名
行動援護従事者養成研修	ほっとぴあ	10月16日、 10月23日、 10月30日	主任
口腔ケア研修	G H 紬	12月12日	G H 全職員

4 環境点検、環境整備、備品機器類の管理

駐車場や建物周囲の環境整備

G H 紬の玄関部分に燕が巣づくりを行うため玄関ドアの取っ手には汚れ防止の対策としてテープでガードしている。また近隣より苦情が入るため、草取りには職員が業務を早く終えた時に適宜草取を行った。草が生い茂った時期には会議が始まる前に全員で集中的に行ったり、除草剤を撒くなどして環境整備に取り組んでいる。

備品、機器について

G H 紬の掃除機を今まで使っていたものの調子が悪くなったため新しく購入している。また、新しい機器や家電に傷やへこみが見られるため、職員による機器の取り扱いにも細心の注意を呼び掛けている。

ひまわりの機器について

長年の使用により衣類乾燥機に異音があり業者に見てもらい新しいものを購入設置している。ほかにも部屋のエアコンやリビングのエアコンの調子が悪いが、今の所正常に使えている。利用者には丁寧に使うように声掛けしているが扉やドアなど壊れることがあり、その都度対応し利用者の生活に影響が出ないように心がけている。

